

平成25年度第2回 福岡市美術館協議会 会議録

|     |   |
|-----|---|
| 日 時 | 平成26年3月18日 (火) 14:00~15:50  |
| 場 所 | 福岡アジア美術館 会議室  |
| 出席者 | 協議会委員：後藤委員外 計13名<br>福岡市美術館：錦織館長外 計12名<br>福岡アジア美術館：村上館長外 計9名       |
| 議題  | (1) 福岡市美術館平成26年度事業計画について<br>(2) 福岡アジア美術館平成26年度事業計画について<br>(3) その他 |

1 開会

2 館長挨拶 (内容は省略)

村上アジア美術館館長挨拶

3 議題

(1) 福岡市美術館平成26年度事業計画について

事務局より報告

(3) 福岡アジア美術館平成26年度事業計画について

事務局より報告

会長： 説明を受け、福岡市美術館事業は多岐にわたって、盛りだくさんの内容でした。

アジア美術館は、第5回目のトリエンナーレを入口に展開されるという印象を受けました

いまの説明について、質問、意見等があればどうぞ。

会長： 法隆寺展は、ずいぶん前にあった記憶がありますが、それ以来ですか。

事務局： 確か1998年に百済観音の展覧会があって、それ以来です。

委員： 3館共通の冬の大人ミュージアムについて、回遊の試みはありますか。共通のパスとかイベントとかの催しがあれば。

事務局： 現在は、未定ではありますが、そういう方向で各館担当と文化振興課で協議して参ります。

案ではありますが、3館を巡るツアー等を考えております。

会長： 会期中は無料ですか。何かあれば、いいですね。

事務局： それはありません。ミュージアムウィークは常設展示無料ですが。

委員： 「更紗の時代」企画の主題とか、福岡における基盤、バックとかいうものがあるのですかあつての構想でしょうか。

事務局： 更紗という言葉は日本語になっておりますが、非常にグローバルな世界共通語でして、もともとインドで作られた染物が染の美しさであるとか文様のすばらしさであるとかが世界的に認められ、

大航海時代に取引をされた貿易のアイテムになっております。福岡がアジアに向かっての活動をする上にあたりまして、アジア美術館はアジアの近現代美術の紹介ですが、福岡市美術館においては、アジア美術の伝統的な織物であるインド更紗を中心とした、さまざまな展示をしております。これまでもアジアの染織や日本の染織を紹介して参りましたが、やや集大成的な展示となります。

会長： 更紗の収集等で誇るべきものがたくさんあると思っておりますが、委員は、別にお考えがありますか。

委員： 外枠の話は理解できるのですが、福岡市美術館で展示することの基盤になることが、今までの展示の延長なのか知りたい。

事務局： 私どもとしてインド更紗のコレクションの世界的な名品がございます。点数は多くはありませんが、今後も収集の活動をしていこうと考えております。現在更紗は注目を浴びております。現在MIHOミュージアムで展示されております、昨年はメトロポリタン美術館で開催されました。地球全体を通じる価値観、グローバリズムとってはいけないでしょうが、そういった価値観を福岡の場所から俯瞰したいと思っております。

会長： コレクションとしてすばらしいものがあるのでしょうか。委員よろしいですか。

委員： 了解しました。

会長： 新しいライフスタイルの提案とかもあるのでしょうか。

事務局： 現代まで繋げていきたいです。

委員： 特別企画展黒田家の美術ですが、現在NHKの大河ドラマがあつていることが原因でしょうか、博物館、美術館それぞれありますが、博物館は歴史的展示、美術館は美術品の展示になるかと存じますが。今までないことなので非常に期待をしておりますが、図録とか講演会等の連動、連携事業はありますか。

事務局： ご推察のとおり、大河ドラマが決まった後に博物館の展示会が決まり、美術館も何かできないかということになりました。美術館も協力しようということで何とか4週間展示期間を設けましたが、期間は重なりませんができるだけ近づけました。美術館の図録の発行については、博物館の展示に間に合わせたいと考えております。博物館の図録は、巡回展でありますので、美術館と合わせて一冊にするというわけにはいきません。図録の販売が同時期になるよう努力して参ります。

会長： NHK福岡から財政的支援がでるのですか。あると踏んでいますがどうですか。

事務局： 博物館の展示は、NHKから財政的支援があるでしょうが、美術館の展示にはできません。

会長： そうですか、目の前なのだから出してもよさそうですが、あなたのためにやっていますよとPRしたよろしいかと。

事務局： 側面的支援、放送とか広報に期待しています。

会長： 広報の方で頑張って貰うように。ぜひ協力をお願いします。

委員： 黒田官兵衛展について追加でお尋ねします。情報発信について、チラシがある分についてはわかりますが、常設展のコーナー展示とかは、ホテル等に送っていただいているのでしょうか。

先日ホテルのコンセルジュと話した所、出張者やホテルに問い合わせがあり企画展以外の情報発信についてどうなっているのか知りたい。美術館だけではなく、福岡市としての全体的なプロジェクトだと思うのでそのあたりを聞きたい。

事務局： 官兵衛プロジェクトとしては、福岡県と本市が連携しておりまして、協議会を作って大々的に展開しているところです。さまざまなイベントが組み込まれておりましてその中の一環としての位置づけもございます。県や市の大きな広報で紹介していただくということでパンフレットやホームページで広報するという事なので、中々個々での広報は、予算の面で厳しいものですので、お願いしていきたい。美術館のホームページや美術館関連の媒体については順次広報していこうと思っています。世間の目が官兵衛に向いていますので、問い合わせや常設展の入館者も増えると期待しております。

会長： ツアー等NHKの力を借りながら展開していけばいいと思います。

事務局： 大阪の旅行業者の問い合わせがありまして、近々ツアーの予定を組んでいるが特別展があるかと、博物館の日程・美術館の日程を教えるとそれに合わせてツアーの予定を組みますということがありました。旅行業者などからの個々の問い合わせは増えております。

委員： アジア美術館のトリエンナーレが5年ぶりに開かれるが、現在開催中の「官展にみる近代美術」はとてもすばらしい美術展で、福岡アジア美術館の存在意義を象徴するような展覧会です。

折角のトリエンナーレなので、若い人たちに来てもらう割引とか仕掛け、工夫が必要ではないかと。

昨日九州国立博物館の会議に出まして、九博ではキャンパスメンバーズという制度があつて、常設ではありますが、大学の学生や教職員が無料で見られるとかあります。学生が来館しやすい工夫とかあればいいなと思いますが。

事務局： トリエンナーレについては、小中学生は無料です。料金設定は高大生・一般となっています。学校の授業で団体で来館されるときは、福岡県内の高校・大学については無料で検討しています。

会長： 無料ということでいいですか、前回も同じ措置でしたか。

事務局： 学校での授業であれば、申し込んでいただいた場合は無料にしました。ただ、周知が徹底していなかったのが、限られた方しか来ていただけなかった。今回は早期に決定して、周知を図りたいと思っています。福岡は全国的に見ても大学生が多いというデータがありますが、展覧会に来る人は非常に少ない。小中生の方が多いので大学生対策を考えたい。今回は今時の若者が好きそうなネタはありますので、大学生の集客に力をいれたいと思います。

会長： 私はゼミ生を連れてきています。数百名単位で連れて行きますが、できれば団体の窓口を作って欲しい。個人的な繋がりや学芸員に連絡をして説明等受けていますが、団体の窓口があればとても良

- と思います。高大生等関心の高い生徒は多いはずですので、わかりやすい制度を作ってください。
- 委員：「官展にみる近代美術」のチケットを買いましたが、事前の一括購入だったので団体割引で買えなかった。20名以上が団体なのは、わかりませんが、全体ではそれ以上なるので、なんとかならないか。理屈は分かりますが工夫ができないか。
- 事務局：美術館では、美術館で一括購入されるとき20枚以上であれば、その取扱いをしている。
- 会長：前売割引と団体割引両方適用できないか。
- 事務局長：できません。学校・団体の利用は、学芸の教育普及が窓口として受け付けています。
- 会長：欧米の美術館は、小中生の団体が多いです。現場の協力も必要ですね、学校関係の委員の方がおられますので、実状を教えてください。
- 委員：教育普及ということで、施設見学をおこなっていますが、団体活動をする上では駐車場やトイレ、集合場所がない中で集客とか言われても厳しい面がある。福岡市美術館は融通がききますが、アジア美術館は難しい。国際理解教育をしていますが、現代美術は、どこの国の人でも同じことができる。それぞれの国の特性や伝統美術等を学ばせるという視点で行っております。子供たちを鑑賞させて、感じる場所を目指している。芸術の方向性デジタルアート・双方向芸術だけではなく、バランスが大事、伝統とかの理解をベースとしている。
- 博多座との連携とか、共感するような作品があればよい。安らぎ、感動する作品も必要である。
- 事務局：トリエンナーレだけを紹介しましたが、心やすらぐ作品やほっとするような作品も所蔵しています。また、今回のトリエンナーレは特に現代的な方向に焦点を絞っていますが、トリエンナーレ特別部門のモンゴルの絵はほっとする絵で、本展とは違うタイプの作品を組み合わせています。
- アジア美術館と市美術館の両方を見ていただけたらよいと思います。
- 委員：昨年五年生の学校鑑賞授業の一環として、福岡市美術館・アジア美術館の両方を鑑賞し、両者の違いが良かった。美術館は、日本的な美、安らぎを感じました。アジア美術館は、アジアのパワーや力強さ、自由な表現を感じた。学校の規模に左右される。キャリア教育をしているが、学芸員の仕事や、展示の監視員は1日座っているのかとか子供は興味があります。どんな対応ができますか、またバックヤードツアーとか団体で使えるのか。
- 事務局：制度として受け入れはやっていないが、学校や生徒さんなど、依頼があれば内容にもよるが、個別では対応できます。インタビューには答えています。
- 事務局：体験的に美術館の仕事をやるプログラムなど、学校現場からの要望があれば、学芸で対応できるか検討したいので連絡をください。
- 会長：折角きた来館者をどうつなげるか、食欲に考えてほしい。学芸員の仕事とかは監視員との認識もあるのでどのように発信するか検討してほしい。
- 委員：教育普及のいきヨウヨウ講座について、60歳以上の年齢層をターゲットにしたのは、初めて聞きます、子供やファミリー向け講座はあったと思いますが、とてもよいことだと思います。企画の趣旨

は、ボランティア養成なのか、一般的な高齢者向けの門戸開放型なのか、今後も年間講座として定着させていくのか、教えてほしい。また、ガイドの養成等募集とかお願いします。

事務局： ボランティア養成ではありません。むしろ美術ファンを増やしていくシニア向け講座を実験的にやってみました。参加者には好評で、続けていきたいと思っています。ボランティアの養成ですが、5年に1回の募集をしております、26年度は募集の年になります。福岡の人は熱心でして、募集人員以上の応募があります。募集の後、いわゆる新人研修をしますが、その後も定期的に研修をしております。

事務局： シニア層の講座はありません。ボランティアについては開館以来活動してきて、現在250名ほどいます。業務に支障がでたら募集するという方法をとっております。募集をかけて、10回研修をしまして、7回以上出席者を登録しています。その後担当学芸員の研修を受け実務についています。

会長： 時間も体力も知力も財力も兼ね備えた層の受け皿を、扱いにくい世代ですが、どう取り込んでいくか美術館としての知恵が必要であると考えます。

事務局： いきヨウヨウ講座はシニア対象で初めて行いましたが、問題点も見えてきました、15名こられました。男性は1名だけです、それも奥さんがくるからということです。思っていた通りではありません。この世代、リタイア世代の男性は、社会にうまく入れないとか・・奥さんは自立しています。男性の退職後社会参加のためのマニュアルを持っている方も話しました。1/3のぐらい男性に参加していただきたい、社会教育の現場の人たちもそうしております。女性の方々みたいに男性はいかない、仕事社会での活躍が反対にじゃましているので、普通の倍ぐらいの時間をかけてゆっくりゆっくりやっていくといい。そんな難しさがありますが、あきらめていません。

会長： どうして、こんな問題を美術館で討議しなければと思いますが、重要な課題であるからだと思います。議題については、よろしいかと存じますので。今からは自由に発言いただけたらと思います。シニア層の取り組みについて、考えがあればお願いします。副会長お願いします。

副会長： まさしく私もその年代です。企業退職者は、OB会というのがありまして、結構集まってよく動くんです。それは、男性が主体となっており、現役の延長上としての役割を担っています。

会長： その世代に訴求するのは知恵や工夫が必要でしょう。

副会長： 福岡には七社会があって、そのOB会は組織としても集客力はあると思います。

事務局： OB会の話がでましたが、軍師官兵衛の話をしてくれという依頼が多くきており、その7割は企業のOB会男性となっています。傾向がありまして、団体内の結束は固いですが、他の団体に行くとか参加するとかは、なかなかされません。その辺の体質は会社の縦社会がそのまま継続されています。

会長： この話は、もっと続くとおもいますので、今後の課題として認識するという事。

外に何かありますか。

委員： 官展，上田宇三郎展，懐かしく思いました。各美術館に蓄積されている収蔵品なりのガイドと申しますか，そういうものが，ホームページを通じて我々が閲覧することが可能ですか。福岡百科辞典というものが西日本新聞社から30年位前に出てそれ以来福岡県全体の文化社会の辞典はでていないんです。福岡市は，市史にとりくんでいらっしゃるが，一般的な辞典とか，特に文化史的な辞典の作成とか長期的なことですが要望です。

会長： お答えができますか。今の文化的な状況，データベース化とか。今後そういう企画があるかむしろ，やっていただきたいと思いますが。

事務局： 美術情報の発信については，大きな課題を抱えております。情報量の多く蓄積のあるところがいかにこれを発信していくかです。美術館ではリニューアル時に情報コーナーを新設し，それをインターネット連動させて情報発信していきたい。データベースの公開も考えています。現在は整備できておりませんが，作家の情報だけではなく，さまざまな情報を発信していきたいです。それ以前の問題ではありますが，美術館同市の情報の共有化が全く進んでおりませんので，ネットワークの構築また，一般の人に向けての情報発信に取り組んでいきたいと思っております。

委員： 現状はよくわかったのですが，伊藤研之や西島伊三雄をネットで探すとそれなりにはできるのですが，しかし，なぜ聞いたかといえは，シニア層に西島伊三雄は知っているが伊藤研之は，知らないという人が多いんです。彼らに説明したり，話をするためにこれこれとネットから印刷し説明しなければ，わからないということですので，これから整備するのはたいへんでしょうが，オールドエイジ向けには是非お願いします。

会長： 図書館のライブラリーか学芸課のライブラリーだと，厚い情報が得られるでしょう。

事務局： ネットでということになりますと，著作権等ハードルがございますが，美術館には，読書室があります。レファレンスもさせていただいていますので，来館する必要がありますが，情報収集のボランティアもおりますので，アーティストのデータ等も整理していますので，アナログにはなりますが，来館してさえいただければ，可能かと思えます。

事務局： アジア美術館では，ホームページのデータベースで2438点の作品は作品解説まで日英のバイリンガルで見られますし，そのうち作品画像も7割ぐらいは見られます。図書資料については，法的な図書館ではありませんので，著作権等の問題がありますが，外部の方にも広く使っていただきたいと考えています。

会長： 少しずつ改善されていくことでしょう。

委員： アンパンマンミュージアムが開館されるときいているが，連携とかありますか。

時間制限チケット売ると聞いていますが，この建物内にできますので，集客とか，取り組みとかありますか。

事務局： 集客として期待しておりますが，ここにアジア美術館がありますよとPRしていきたい。

アンパンマンミュージアムから見上げる位置の窓に何かわかるようにしたい。チラシとか置いて

もらえるよう，アンパンマンのチケットで割引できるとか，今後大いに協議し推進したい。

会長： 未確定情報等ありますが，協議していただきたいと思います。本日はいろいろな意見がでたが、  
よりよい美術館に向けて頑張ってもらいたい。

#### 4 館長挨拶（内容は省略）

錦織福岡市美術館館長挨拶

#### 5 閉会